

第2回 4月 共通テスト本番レベル模試

学問に王道なし！

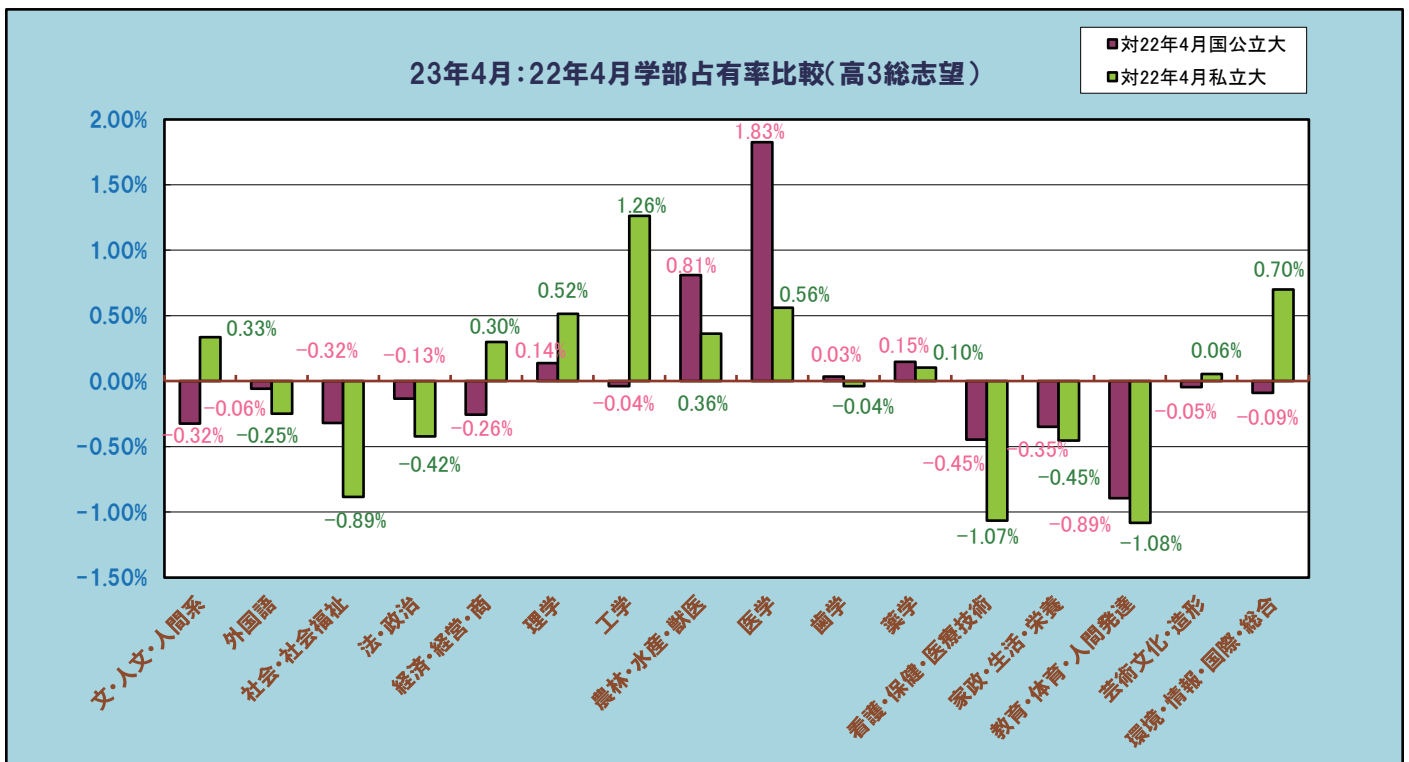
不安な気持ちに負けず、勉強を積み重ねよう。

4月23日（日）に実施した「第2回 4月 共通テスト本番レベル模試」の高3生の学部系統別の志望動向を、昨年同時期の高3生の志望動向と比較した。

長かったコロナ禍以前の生活を取り戻しつつある今、新学期の高校生活も昨年までとは異なっていることだろう。その動きは大学も同様で、今年はオープンキャンパスや入試説明会も実際のキャンパスでの実施が基本となるはずだ。

ポストコロナへの動きが進む中、受験生たちはこれからどのような学問を学びたいと思っているのか、参考にしてほしい。

【学部系統別占有率昨年比較(設置区分別)】



【学部系統別指数(設置区分別)】*前年度を100とする

■国公立大

引き続き理高文低の志望動向である。特に、医学系と農林・水産・獣医系（主に獣医）の人気は高止まりとなっている。

文系では新型コロナが5類に移行することもあるか、国際系の人気が復調傾向が見られる。

一方で、2023年度入試で志願者が増加した家政・生活・栄養系は大幅に志望者を減らしている。

■私立大

2023年度入試で志願者が増加した経済・経営・商学系の人気は継続している。また国公立大同様、医学系と農林・水産・獣医系も志望者を集めている。

だが、家政・生活・栄養系は国公立大と同様に不人気である。産官学を挙げてデータサイエンスを中心としたデジタル人材の育成を目指している今、学部や学科の新設・改組も活発になっているため、今後の志望動向に注目したい。

系統別名称	国公立指数	私立指数	総合
文・人文・人間系	95	103	100
外国語	94	87	89
社会・社会福祉	82	84	83
法・政治	98	96	96
経済・経営・商	97	102	100
理学	102	109	105
工学	100	102	101
農林・水産・獣医	115	117	116
医学	120	123	121
歯学	104	87	100
薬学	103	102	103
看護・保健・医療技術	93	87	90
家政・生活・栄養	73	75	74
教育・体育・人間発達	86	74	81
芸術文化・造形	92	104	100
環境・情報・国際・総合	98	111	106
うち情報	97	93	95
うち国際	102	99	100

※このデータは、2023年と2022年の「第2回 4月 共通テスト本番レベル模試」について、大学の設置区分（国公立・私立）ごとに学部系統別の総志望者数（統一実施日受験の高3生・第6志望まで）から算出した割合を比較したものである。